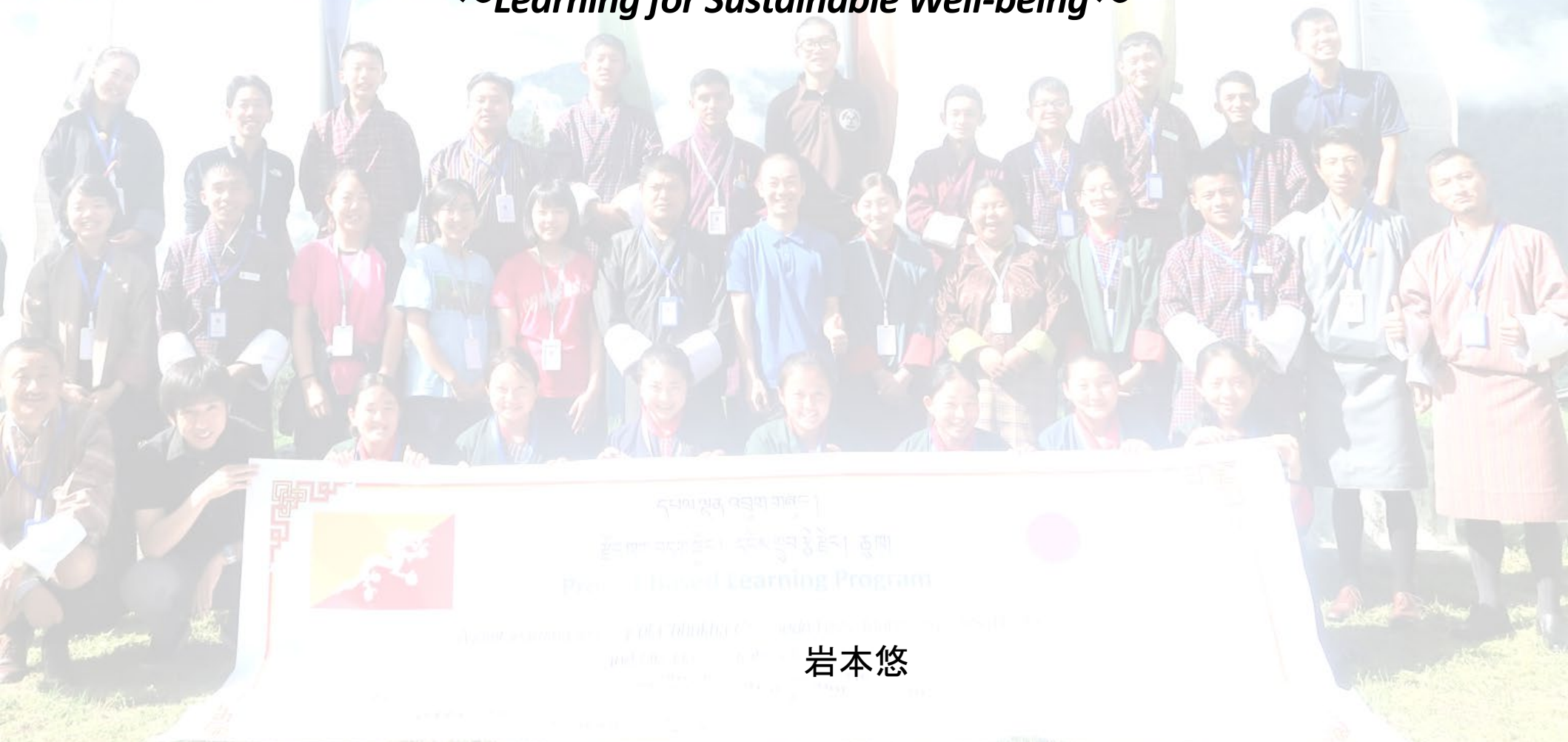


持続可能な幸せをつくる学びの実現に向けて

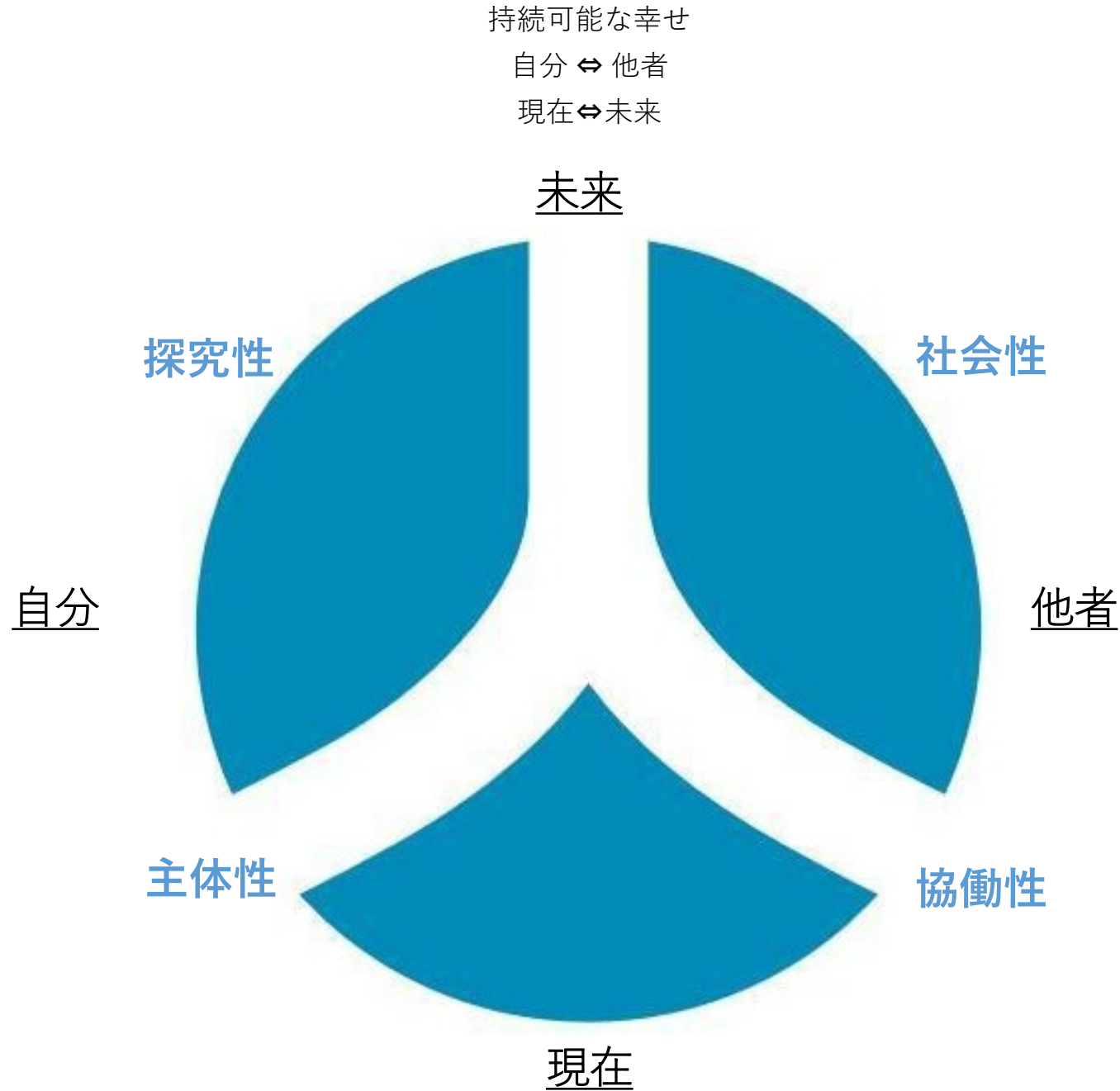
～Learning for Sustainable Well-being～



岩本悠

自分と他者の現在と未来の幸せを包摂する 持続可能な幸せ(ウェルビーイング)をつくる学びへ

Education for Sustainable Development → Education for Sustainable Well-being → Learning for Sustainable Well-being



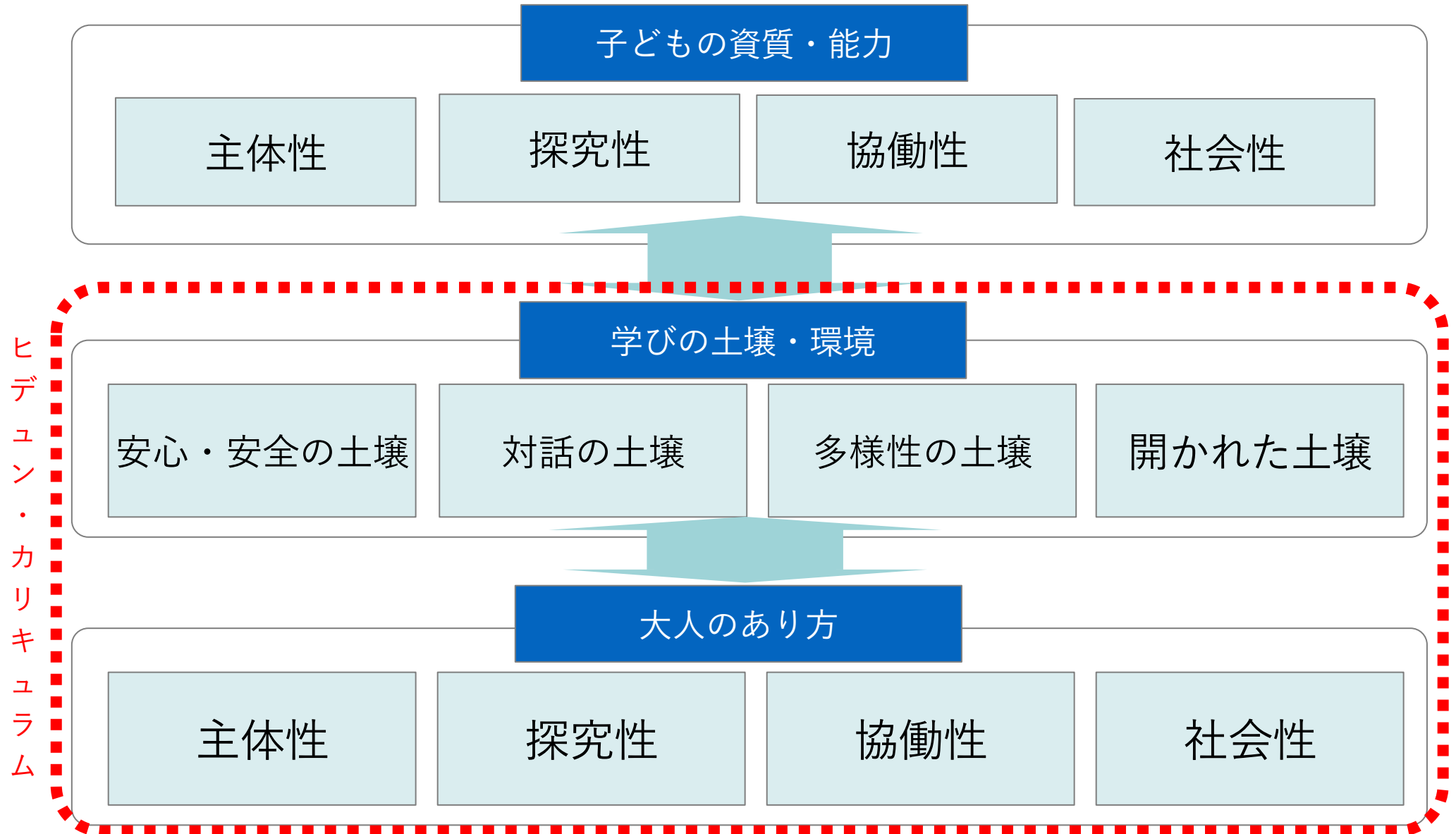
持続可能な幸せ(Well-being)をつくる教育とは 'Education for Sustainable Well-being'

教育の目的・目標と子どもの身につける資質・能力が
Well-beingをつくるためのものである

教育の課程・過程と環境・土壌（場・関係性・機会）が
Well-beingを保障するものである

教育に関わる大人（教職員等）が
Well-beingを持続できている

ウェルビーイングに向けて子どもたちの資質・能力を育むためには
明示的な教育課程だけでなく、ヒデューンカリキュラム（学びの土壌等）も含めた
深いカリキュラム・マネジメントが重要



※高校魅力化評価システムの分析により「学びの土壌」が豊かな学校ほど、生徒の資質・能力を高めるという関係性が見られた。
また、経年分析によって「学びの土壌」の豊かさが高まるほど、生徒の資質・能力も高まるという分析結果も得られた。

生徒・学びの土壌・大人のウェルビーイングの見える化に向けた 評価システム事例

「生徒の成長」及び「学びの土壌（学習環境）」「大人のあり方」を見える化し、エビデンスと対話に基づく教育政策マネジメント及びカリキュラム・マネジメントを促進するための評価ツールとして高校魅力化評価システムを開発。令和3年度には全国40都道府県186校（59318名）が活用。

「高校魅力化評価システム」の特徴

1. 新学習指導要領において求められる資質・能力を多面的に把握



- ✓ 生徒及び教職員等への質問紙調査を用いて、これからの社会に求められる資質・能力やウェルビーイングに関する状況を多面的に捉えることができます。
- ✓ 特に、「社会に開かれた教育課程」や「高等学校教育改革」を踏まえ、地域や社会に対する意識を幅広く捉えているところが特徴です。

2. 生徒の学習環境（＝「学びの土壌」）を把握

- ✓ 資質・能力の育成に重要となる、生徒を取り巻く学習環境（学校や地域での大人との関係性や機会の有無など）に着目します。
- ✓ 生徒の学習環境（＝学びの土壌）の現状を、定量的に把握できる点に大きな特徴があります。
- ✓ また、生徒の学習環境に影響を与える、大人（教職員等）の在り方（姿勢・態度等）の見える化・振り返りも行えます。



【参考】高校魅力化評価システムの構造

	主体性	協働性	探究性	社会性
生徒のウェルビーイング	<u>私の現在の幸せ</u>	<u>私たちの現在の幸せ</u>	<u>私の未来の幸せ</u>	<u>私たちの未来の幸せ</u>
生徒の行動実績	主体性に関わる 生徒の行動実績	協働性に関わる 生徒の行動実績	探究性に関わる 生徒の行動実績	社会性に関わる 生徒の行動実績
生徒の能力認識	主体性に関わる 生徒の自己認識	協働性に関わる 生徒の自己認識	探究性に関わる 生徒の自己認識	社会性に関わる 生徒の自己認識
				
学習環境(学びの土壌)	主体性に関わる 学習環境の質	協働性に関わる 学習環境の質	探究性に関わる 学習環境の質	社会性に関わる 学習環境の質
学習活動	主体性に関わる 学習活動の量	協働性に関わる 学習活動の量	探究性に関わる 学習活動の量	社会性に関わる 学習活動の量
				
大人の行動・認識	主体性に関わる 大人の行動・認識	協働性に関わる 大人の行動・認識	探究性に関わる 大人の行動・認識	社会性に関わる 大人の行動・認識
大人のウェルビーイング	大人の幸福度・生活満足度・成長貢献実感等			

【参考】高校魅力化評価システム指標(一部抜粋)

■生徒のウェルビーイングに関する指標 (一部抜粋)

私の現在の幸せ：学ぶための幸せ
今の生活全般に対する満足度 普段のあなたの幸福度 現在の日常生活に不安や心配事がない
私たちの現在の幸せ：共に学ぶ幸せ
この学校に入ってよかったと思う 学校の一員だと感じている 大切な人を幸せにしたり、楽しませたりしていると思う
私の未来の幸せ：学び続ける幸せ
自分の将来について明るい希望を持っている 自分の将来についての見通し(将来こついう風でありたい)を持っている 自分の将来に向けて大切だと思うことを実行している
私たちの未来の幸せ：学びを(未来・社会に)つなぐ幸せ
将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある 住んでいる地域の文化や暮らしの価値ある部分を、自らの手で未来に伝えていきたい 日本の将来は明るいと思う

■学びの土壌に関する指標 (一部抜粋)

安心・安全の土壌 (主体性に関わる学習環境)
失敗してもよいという安全・安心な雰囲気がある／挑戦する人に対して、応援する雰囲気がある 自分が何か挑戦しようと思ったとき、周りは手を差し伸べてくれる 地域に、尊敬している・憧れている大人がいる
多様性の土壌 (協働性に関わる学習環境)
自分と異なる立場や役割を持つ人との関わりがある／立場や役割を超えて協働する機会がある 人と違うことが尊重される雰囲気がある 周りの大人は、自分に関わることについて自分で決めることを尊重してくれる
対話の土壌 (探究性に関わる学習環境)
本音を気兼ねなく発言できる雰囲気がある／お互いに問いかけあう機会がある 生徒の意見が学校での意思決定に反映される雰囲気がある 将来のことや実現したいことを話し合える大人がいる
開かれた土壌 (社会性に関わる学習環境)
地域の人や課題など、興味を持ったことに対してすぐに橋渡しをしてくれる大人がいる／地域の人や課題などにじかに触れる機会がある 地域から大切にされている雰囲気を感じる 自分の暮らす地域を、外からの視点で考える機会がある

【参考】高校魅力化評価システムの活用場面

学年会議で

【学年・学級目標などの検討・評価のために】

- 学年ごとの生徒の特性を踏まえた教育実践や、「主体的・対話的で深い学び」による授業改善（PDCA）のサポートに。

職員会議や 学校評価で

【学校の現状把握、目標の設定・共有、評価のために】

「チーム学校」が丸となる目標の共有、成果や状態の評価に。

- 特に伸ばしたい生徒の力の目標共有
- 経年での成果の把握と対話的な振り返り など

地域との 協働の場で

【教育に関わる自らのあり方を振り返るきっかけにも】

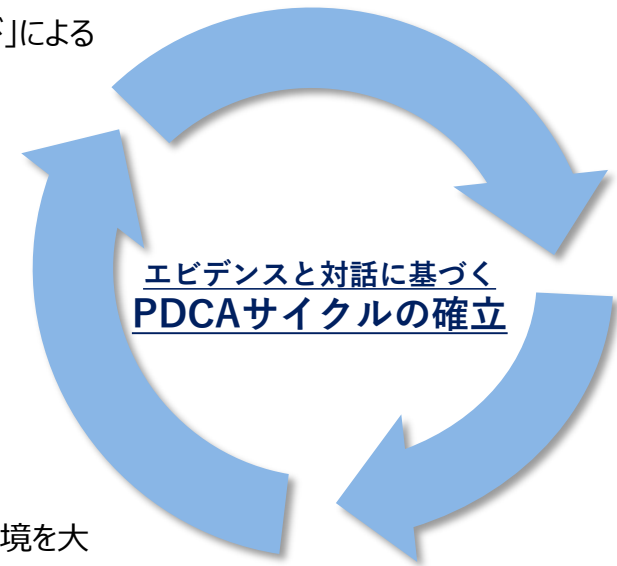
生徒の学習環境はどのような状況にあるのか定量的に把握し、どのような学習環境を大人たちが変えていけば良いか、地域と協働した建設的な議論のサポートに。

- この高校、地域の学習環境の強み、弱みは？ 私たちに何ができるか？ など

事業評価で

【事業のPDCAサイクルの推進や成果の見える化、現場支援・予算獲得にも活用】

- 魅力化などの事業によって、生徒の成長や地域、社会への意識の変化に対し、どのような成果が見られるか？ 進捗確認のサポートに。
- 今後も事業を継続し、予算獲得、有効な政策に繋げていくために取得すべき成果指標は何か？ など



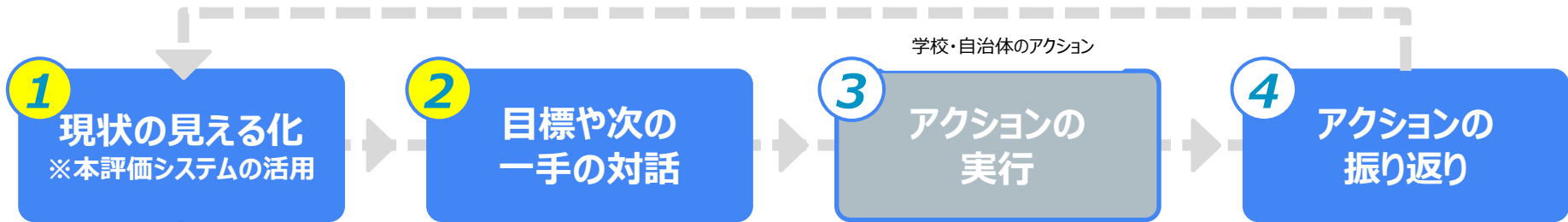
【例】 島根県教育庁では、2019年から全県立高校で高校魅力化評価システムを導入し、2019年2月に策定した「県立高校魅力化ビジョン」に基づく施策評価の一つとして結果を活用。

- また、知事部局との部局横断プロジェクトの企画立案や予算の協議においても、こうした評価結果を共有することで、データに基づいて施策を検討することができている。
- また、県立高校における「グランドデザイン」の策定プロセスにおいて、教職員による生徒の現状把握、「育てたい生徒像」や教育活動の検討に評価が活用されている。「グランドデザイン」策定後は、各高校が「グランドデザイン」に基づく成果指標を設定し、毎年度取組みを検証することでPDCAを回して、教育活動のさらなる推進を目指している。

【参考】活用イメージ

育てたい生徒像(資質・能力)の設定と評価・改善

育てたい生徒像(資質・能力)と紐づけて評価・目標設定し、対話的に振り返り、改善にいかす



- 高校の生徒、教職員、行政・地域等の高校関係者に対してWebアンケート調査を行い、「生徒の資質能力(意識・行動)」「学習環境(学びの土壌)」「大人の在り方(意識・行動)」を定量的に見える化
 - ✓ 自校と他の回答校の平均との比較
 - ✓ 生徒の成長の経年変化(※複数年調査実施の場合)
 - ✓ 学習環境に関する生徒と大人の認識の差
- 定量的な評価結果(エビデンス)をもとに、教職員や地域・行政等の関係者で共に学び、対話し、次の一手を共創する研修・ワークショップを開催

※調査結果出力イメージ



各指標に対しての現状を、経年変化、昨年度との差、他地域との差から把握し、次の一手に生かす

	全校		
	全体割合(%)	昨年度との差差(pt)	他地域との差差(pt)
● 10pt以上の増加 ● 0~10ptの増加 ● 減少			
社会性に関わる自己認識	50.4%	13.93	-1.04
【地域貢献意識】			
62 将来の国や地域の担い手として、積極的に政策決定に関わりたい	60.9%	13.73	-2.02
63 地域をよりよくするため、地域の問題に関わりたい	39.9%	14.14	-0.06
53 地域をよりよくするため、地域の問題に関わりたい	80.2%	15.43	5.54
55 将来、自分の住んでいる地域に役に立ちたい	89.1%	7.70	6.03
【社会参画意識】			
54 私が関わることで、社会状況が変えられるかもしれない	89.9%	19.14	3.84
59 地域や社会との関係は自分たちで築かれる	61.6%	19.45	6.76
52 18歳選挙権を取得したら、選挙に行くとと思う	70.7%	16.01	5.51
【グローバル意識】			
56 地域の課題と世界での課題は関連していると思う	56.5%	7.24	0.57
61 将来、見知らぬ土地で暮らすことになる	79.0%	14.70	7.93
60 将来、自分のいま住んでいる地域で働きたいと思う	73.9%	13.20	5.92
【持続可能意識】			
57 地域文化や暮らしを、自らの手で未来に伝えたい	73.2%	28.90	7.62
65 自分の将来について明るい希望を持っている	66.2%	19.99	12.68
	79.7%	19.71	20.11
	83.3%	26.19	21.68
	35.5%	14.08	-3.73

【参考】学校における活用例：スクール・ポリシーや学校目標の策定

データをもとに教職員や関係者を含め対話的にスクール・ポリシーを策定し、学校経営のPDCAに活用

- 育てたい生徒像として掲げている力の視点で、アンケート結果から生徒の「できていること」「できていないこと」の現状分析を行う。
- 出てきた内容をもとに「身につけさせたい資質・能力」をあらためて具体化し、グラデュエーション・ポリシーとして整理。
- それぞれの資質・能力を身につけさせるためにはどういった手段や機会を設けると良いかを分掌・学年会等に分かれて協議し、カリキュラム・ポリシーにまとめる。
- これらを踏まえて、アドミッション・ポリシーを策定。
- 教職員等で対話的に進めたことで、実際の教育活動でも教職員が意識しやすい形で、スクール・ポリシーを策定。

【例】島根県立江津工業高等学校のグランドデザイン(スクール・ポリシー)の成果指標

1. グランドデザイン(目指す学校像・生徒像)の成果指標

※1) 太字は目指す学校像・生徒像。※2) Qは高校魅力化アンケート番号。※3) 数値は肯定的に回答した生徒の割合(%)

	R3				R4				R5			
	6月	7月	12月	3月	6月	7月	12月	3月	6月	7月	12月	3月
1 地域産業を担う人材を育成するための実践的教育を行う工業高校	35.6		69.1									
Q14.地域の魅力や資源について考える	33.1		72.7									
Q15.地域の課題の解決方法について考える	32.5		75.3									
Q58.地域社会の魅力や課題について、自主的にテーマを設定し、フィールドワーク等を行いながら調べ、考える学習活動に対して、熱心に取り組んでいる	41.1		59.3									
2 規範意識と社会性を身につけ、積極的に社会に貢献する人材を育成する工業高校	46.6		64.7									
Q53.地域をよりよくするため、地域における問題に関わりたい	56.3		74.7									
Q55.将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある	62.3		76.0									
Q67.地域社会などでボランティア活動に参加した	21.1		43.3									
3 生徒自身が自らの成長を実感できる工業高校	84.8		84.7									
Q64.学校で学習することで、自分ができることやしたいことが増えている	84.8		84.7									
4 地域社会から必要とされ、保護者の期待に応える工業高校	58.3		75.5									
Q19.地域から大切にされている雰囲気を感じる	76.2		84.7									
Q29.地域の人や課題などにじかに触れる機会がある	50.3		75.3									
Q53.地域をよりよくするため、地域における問題に関わりたい	62.3		74.7									
Q55.将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある	56.3		76.0									
Q57.住んでいる地域の文化や暮らしの価値ある部分を、自らの手で未来に伝えていきたい	49.0		74.7									
Q60.将来、自分のいま住んでいる地域で働きたいと思う	55.6		67.3									
5 自立・協働・創造の資質と人権感覚を持った実践力を身につけた人	76.2		86.0									
Q28.立場や役割を超えて協働する機会がある	61.6		74.7									
Q41.自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	90.7		97.3									
6 5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)活動ができる人間力を身につけた人	65.3		76.4									
Q38.目標を設定し、確実に行動することができる	64.9		76.0									
Q51.自分で計画を立てて活動することができる	65.6		76.7									
7 KY(危険予知)能力と技術力・判断力を身につけた人	56.3		69.3									
Q72.授業の内容について、「なぜそうなるのか」と疑問を持って、自分で考えたり調べたりした	69.5		67.3									
Q78.客観的な証拠に基づき考え、判断する科学的視点から課題解決にあたることができる	43.0		71.3									

【参考】学校における活用例：育てたい生徒像にもとづく評価・改善

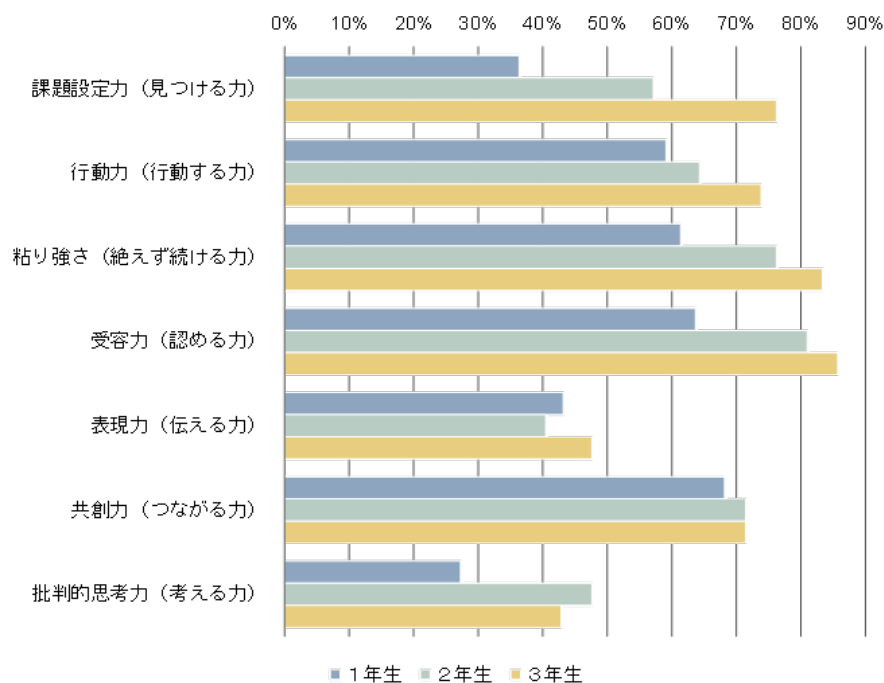
評価項目を育てたい生徒像と紐づけて整理し、対話的に振り返り、次の一手を検討、実施

- 自校の育てたい生徒像をルーブリックとして整理し、関連する評価項目を一覧化。
- 教職員研修で学年ごとに結果を分析し、改善に向けた施策を検討。
- 重点的に数値を向上させる項目を検討し、現在の教育活動をどのように改善するかと合わせて、職員会議で共有。
- 実際の教育活動についても、お互いに授業見学等を行う。
- 重点項目に関する記述を独自で作成（具体例等も記入）し、変化を分析。

【例】山形県立小国高等学校は、2019年度から2021年度にかけて取り組んできた「白い森未来探究学」の開発・実践に高校魅力化評価システムを活用した。

同校では、育てたい生徒の力「オグパワ7」に対応する評価項目を中心に振り返りの校内研修を実施した。自らの取組みに照らして評価結果を解釈し、現場で起きていたことを想起する中で「問題」を自ら特定し、今後の取組みに向けた改善点が抽出された。

■オグパワ7に該当する評価指標の「肯定的回答の割合」の推移



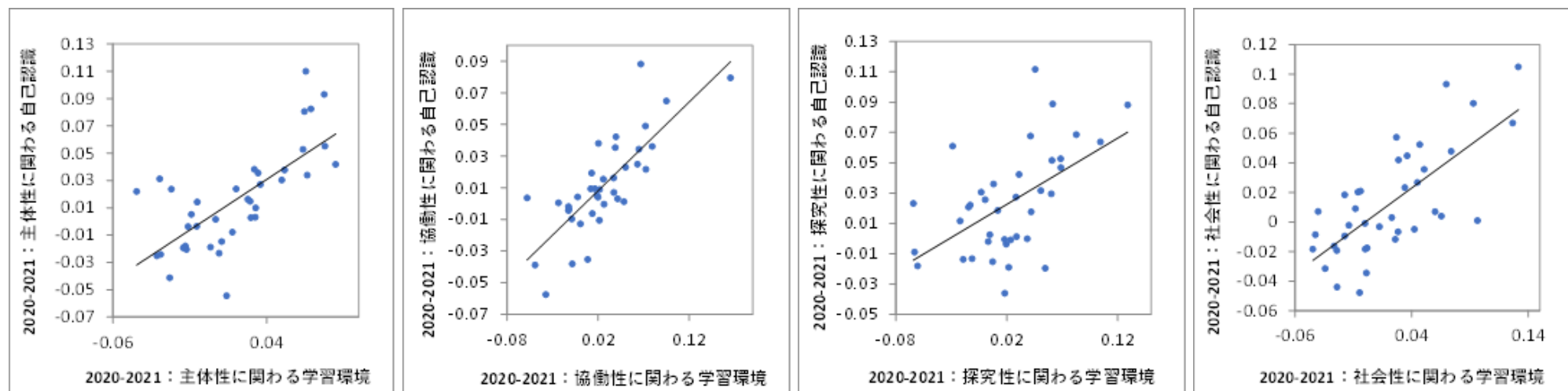
調査結果を受けての対話の実例

- 「批判的思考力(考える力)」では肯定的回答割合が半数に満たなかったことに着目。
- 研修に参加した教員からは「かつて地域文化学として探究に取り組んでいたころには、批判的思考(考える力)を重視していたが、これを強く求めると生徒自身で探究を進めることが難しくなり、教員が誘導しなければならない状態になりやすかった。そこで白い森未来探究学では主体的にマイプロジェクトを持って活動することに重点を置くPBL (Project Based Learning) に切り替えてきたので今回の結果はとても腑に落ちるものである」との声が聞かれた。
- また、「『挑め、ともに！』を合言葉としている本校としてはマイプロジェクトに主体的に取り組むことを重視する良さを継続したい一方で、マイプロジェクトを進める中で学問的な探究に関心をもつ生徒もいた。これまでこうした生徒に十分に対応できていない場面があったので、個々の関心や探究の深まりに応じた伴走を改めて心がけようと思った。」との意見も出された。

【参考】「学びの土壌」を豊かにすることで、生徒の資質・能力が高まる

- インput指標である「学習活動」や「学びの土壌」が豊かな学校ほど、生徒の資質・能力を高めるという関係性が見られた。
- 加えて、経年分析によって、「学習活動」や「学びの土壌」の豊かさが高まる（プラスに変化する）ほど、生徒の資質・能力も高まる（プラスに変化する）という分析結果も得られた。

図表 2-5 学習環境(2020-2021変化) × 能力認識(2020-2021変化)

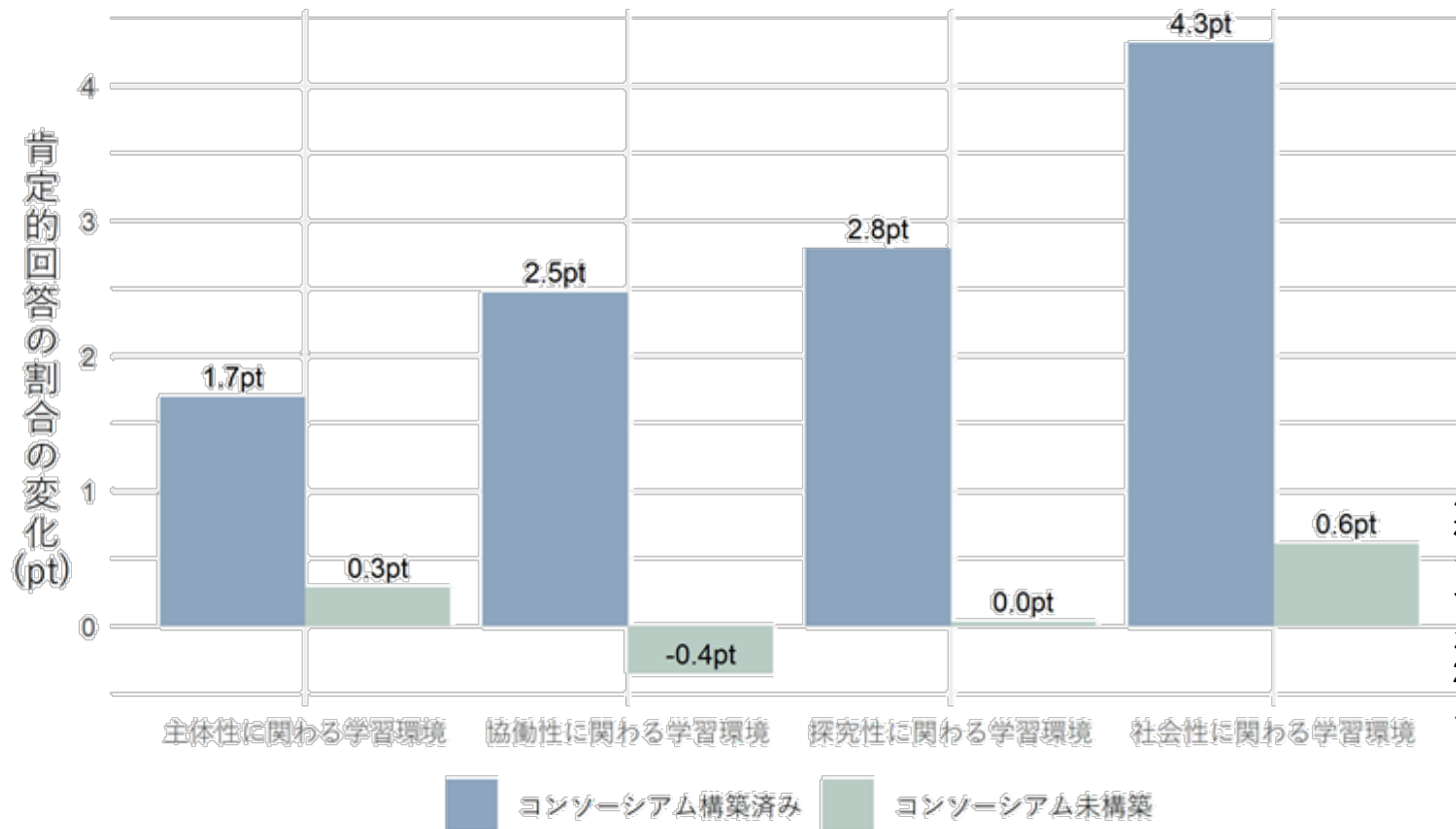


注) グラフの軸は、肯定的回答割合の変化を小数表示したものである。点の散布状況が比例関係(右肩上がり又は右肩下がり)になるほど、指標間の相関性が強いといえる。

【参考】「学びの土壌」を豊かにするには 地域・社会との連携協働体制の構築や人材配置が有効

- 学びの場における人との関係性や機会、雰囲気といった「隠れたカリキュラム」としての「学びの土壌」を豊かにするために有効な要素として、島根県で取り組まれている体制構築（コンソーシアム構築）や人材配置（コーディネーター等の配置）との関係性の分析を行った。
- コンソーシアムを構築している学校や教員以外のスタッフ（コーディネーター等）を配置している学校では、そうでない学校と比べ、学びの土壌が豊かであるという結果が得られた。

図表 3-1 コンソーシアム構築有無（2020）と学習環境（2020-2021変化）



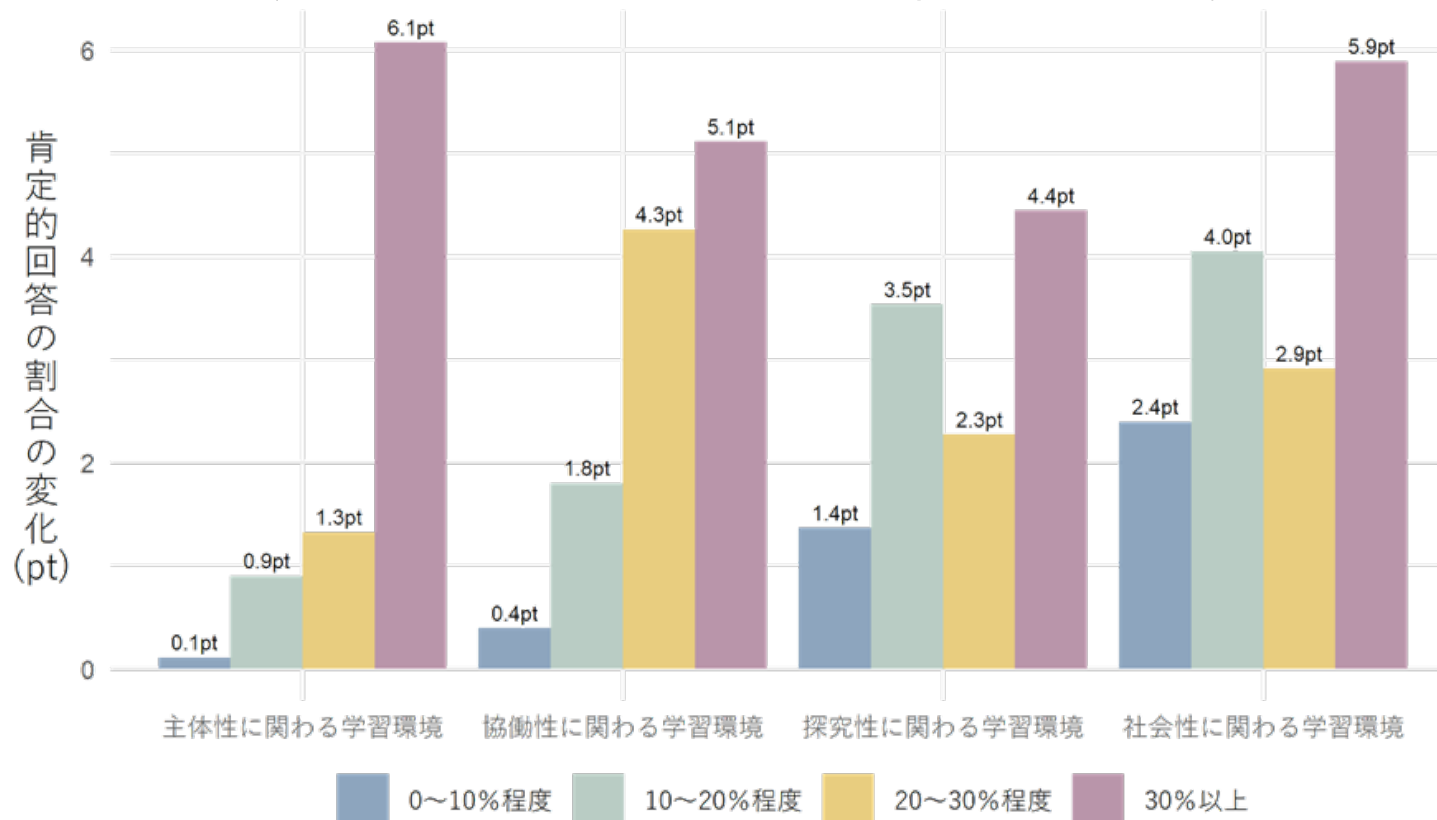
注1)「コンソーシアム構築済み」は、島根県において2020年9月時点でコンソーシアムを設置していると県が把握している学校。

注2)伸びを分析するため、2020年と2021年いずれの調査も回答した6,880人を分析対象とした。

【参考】生徒集団の多様性が「学びの土壌」を豊かにする

- 島根県では、魅力的な教育環境を強みとして県外からの高校入学生を募集する「しまね留学」を推進。学校における県外生(しまね留学生)の割合と学習環境との関係性をみると、県外生割合が「30%以上」と高い学校で学習環境に対する肯定的回答割合が上昇。
- 「しまね留学」によって学校の生徒集団の多様性が高まり、それに伴い学びの土壌も豊かになっているということが示唆される。

図表 5-1 県外生割合(2020)と学習環境(2020-2021変化)

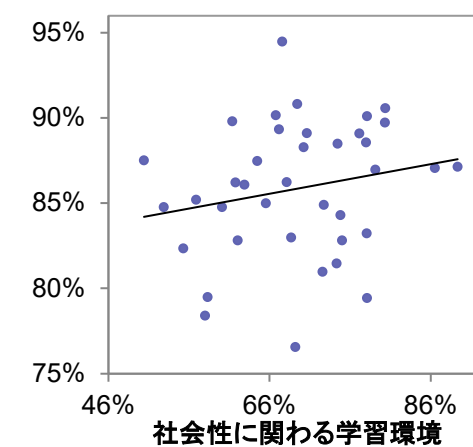
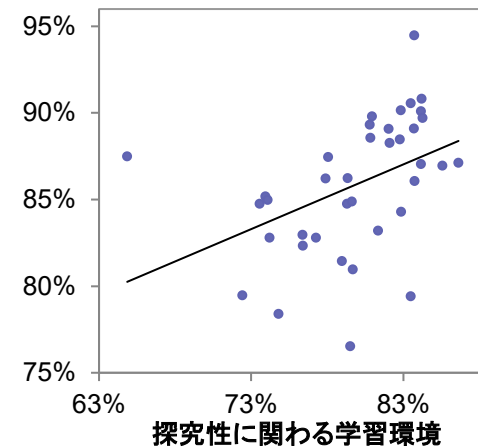
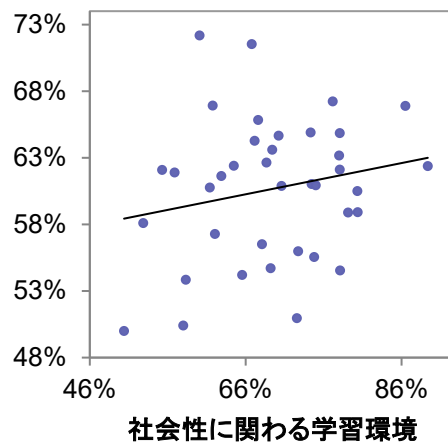
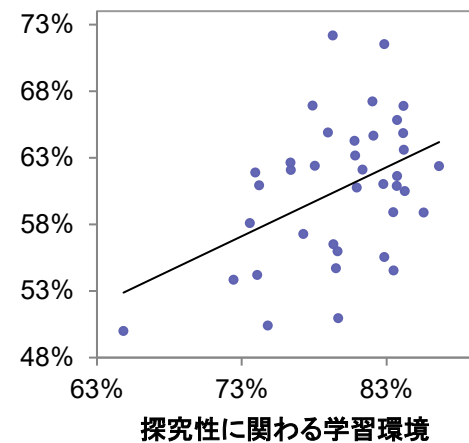
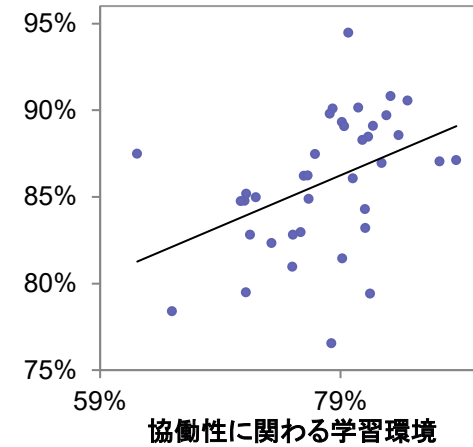
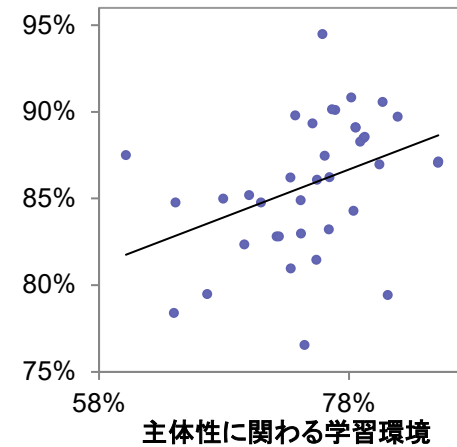
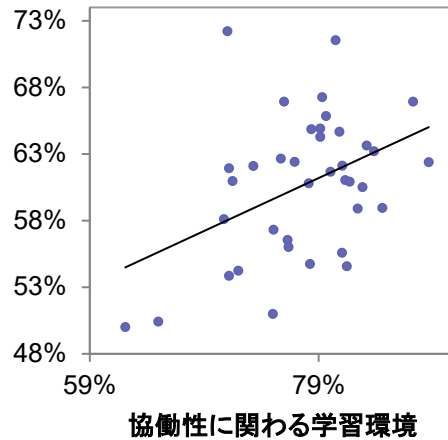
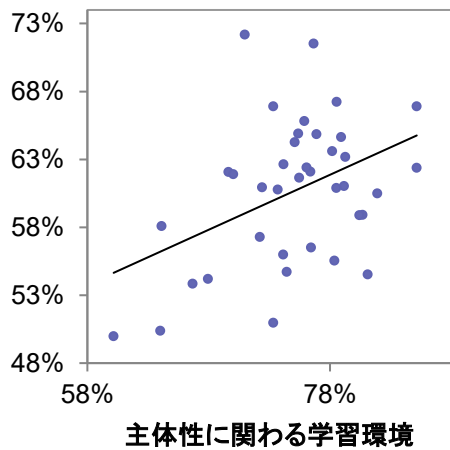


注) 伸びを分析するため、2020年と2021年いずれの調査も回答した6,880人を分析対象とした。

【参考】学びの土壌(学習環境)とWell-beingとの関係性

全体として、あなたはあなたの最近の生活全般に、どのくらい満足していますか

この学校に入ってよかったと思う

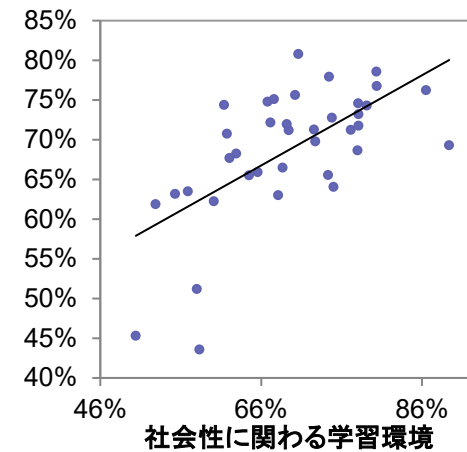
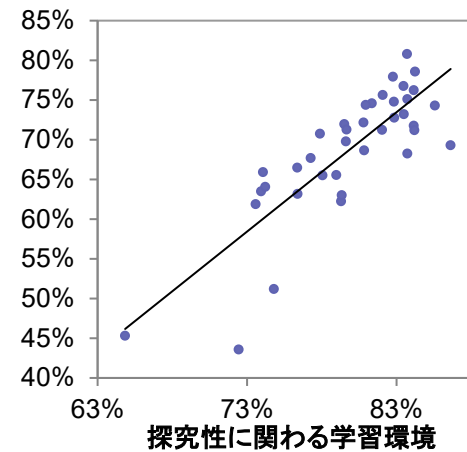
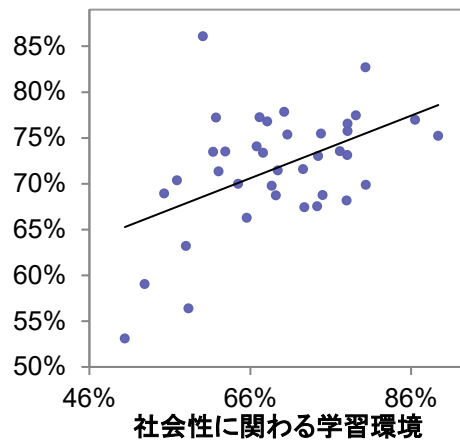
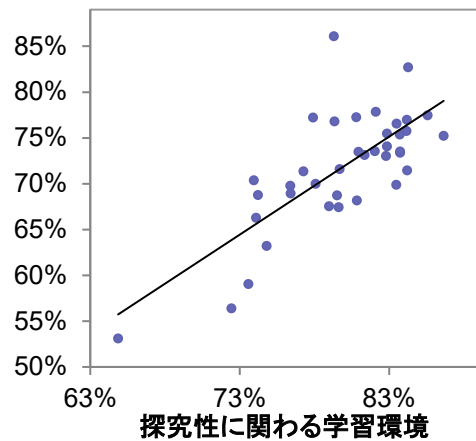
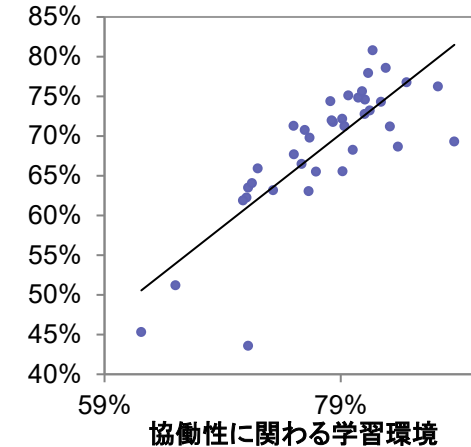
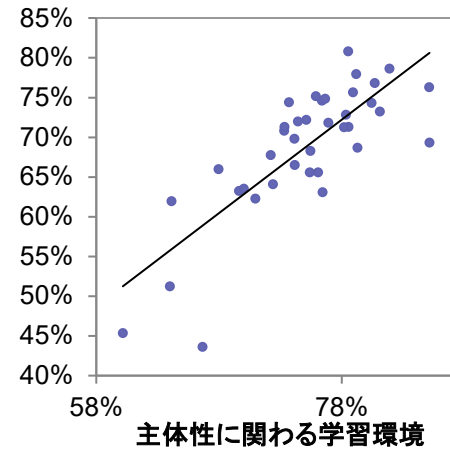
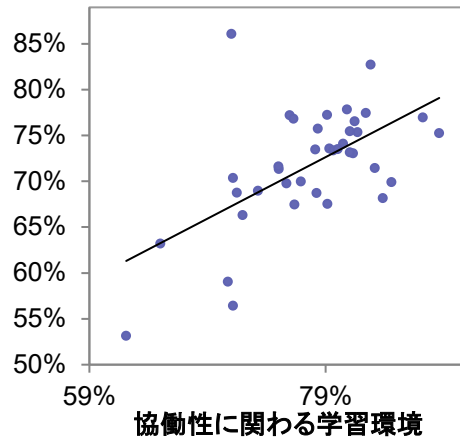
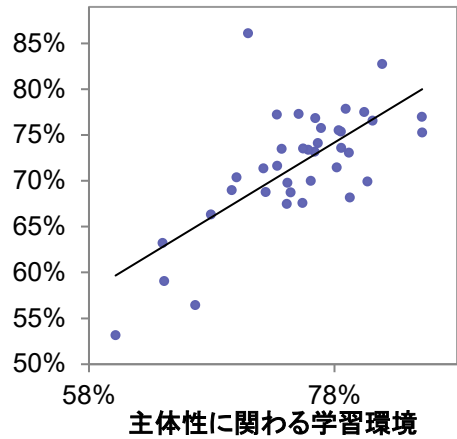


注)縦軸は設問に対する肯定的回答割合の学校平均値、横軸は生徒の学習環境への肯定的回答割合の学校平均値を示す。
データは高校魅力化評価システムの2021年学校レベルデータ(某自治体内38校)を使用した。

【参考】学びの土壌(学習環境)とWell-beingとの関係性

自分の将来について明るい希望を持っている

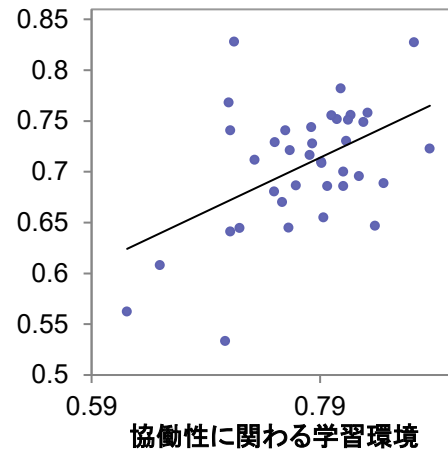
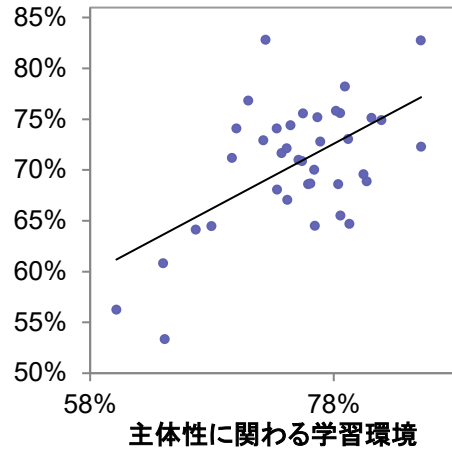
将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある



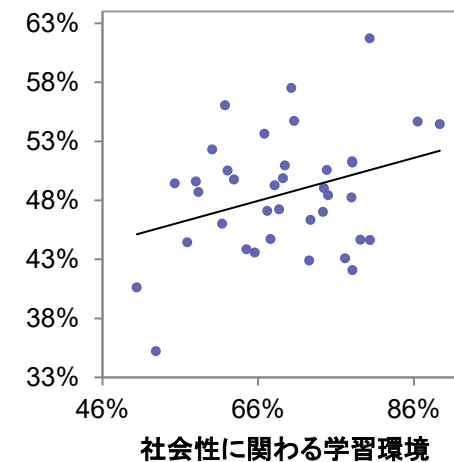
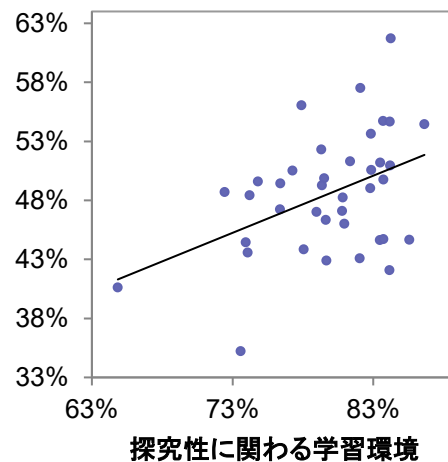
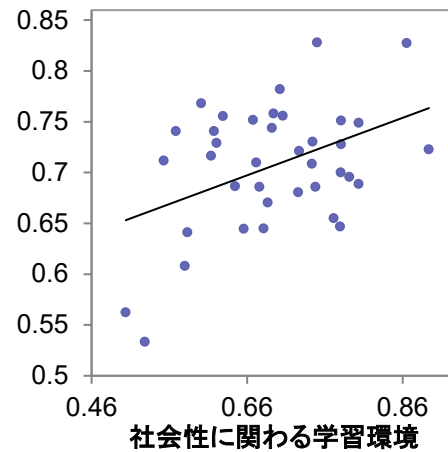
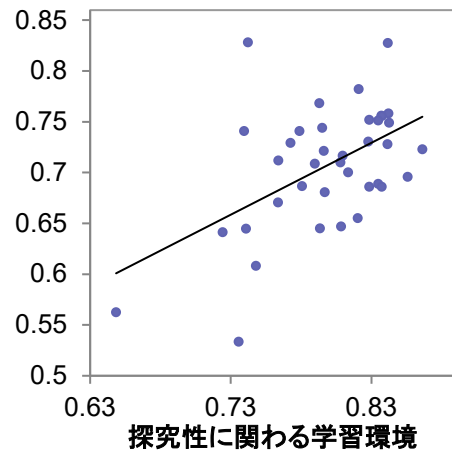
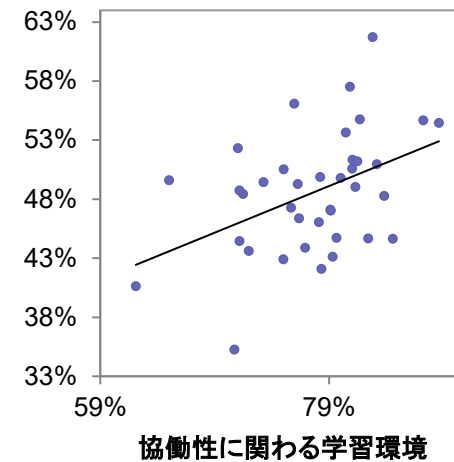
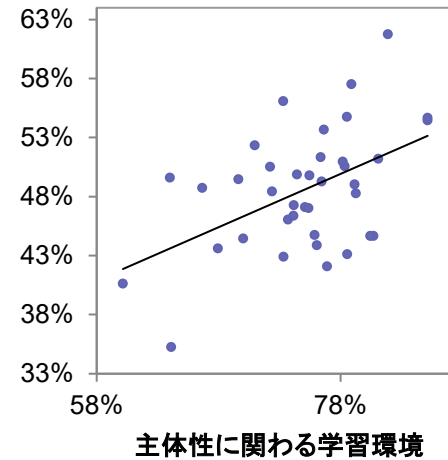
注)縦軸に設問に対する肯定的回答割合の学校平均値、横軸は生徒の学習環境への肯定的回答割合の学校平均値を示す。
データは高校魅力化評価システムの2021年学校レベルデータ(某自治体内38校)を使用した。

【参考】学びの土壌(学習環境)とWell-beingとの関係性

自分にはよいところがあると思う



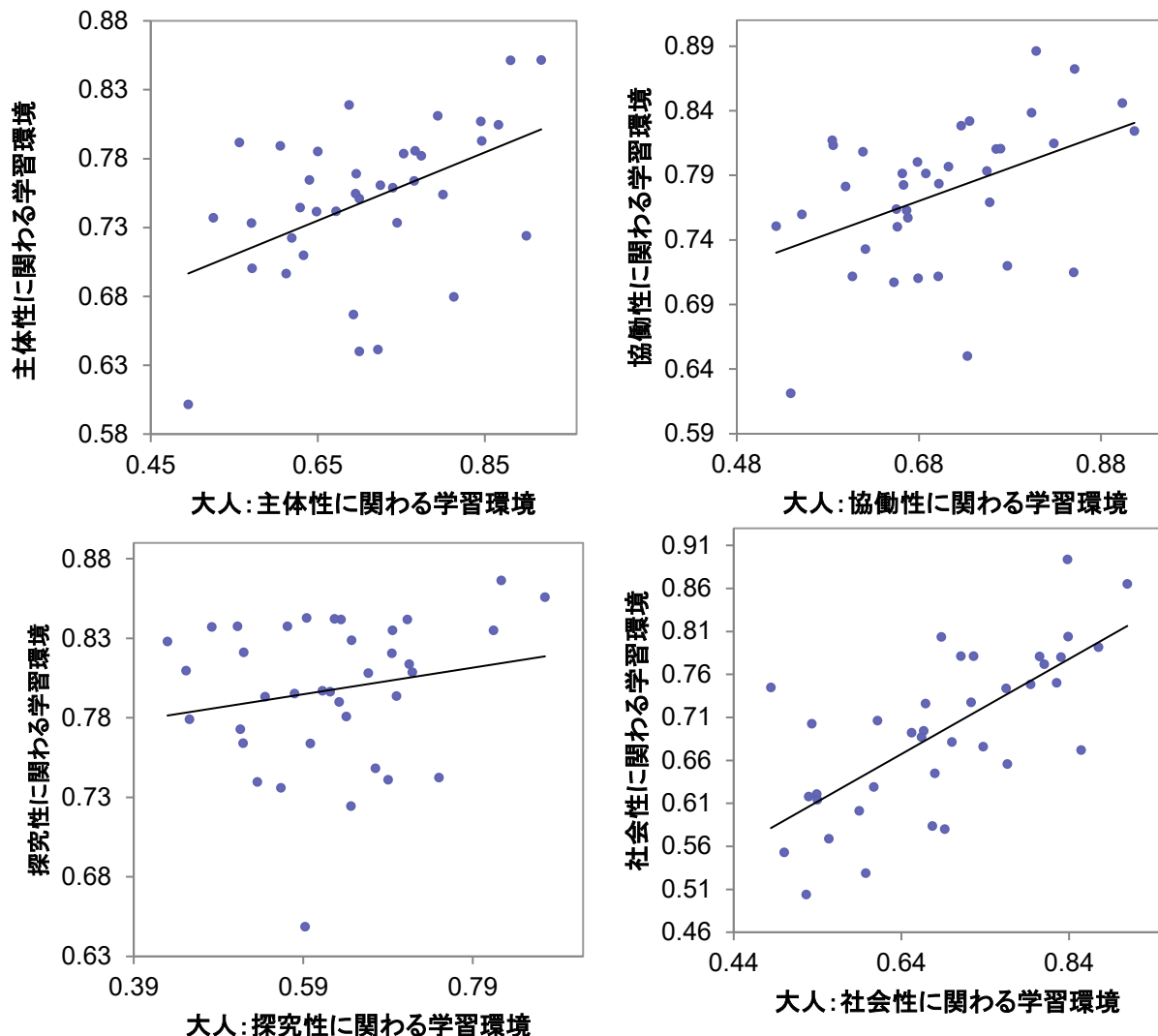
私は、自分自身に満足している



注)縦軸に設問に対する肯定的回答割合の学校平均値、横軸は生徒の学習環境への肯定的回答割合の学校平均値を示す。
データは高校魅力化評価システムの2021年学校レベルデータ(某自治体内38校)を使用した。

【参考】大人と生徒の学びの土壌の関係性

- 大人の在り方・大人の学びの土壌が高まるにつれて、生徒の学びの土壌(学習環境)も高まる関係性が見られる。



注)縦軸は生徒の学習環境への肯定的回答割合の学校平均値、横軸は大人の学習環境への肯定的回答割合の学校平均値を示す。
データは高校魅力化評価システムの2021年学校レベルデータ(某自治体における38校)を使用した。